

やまぐちっ子学力向上だより

第 157 号 R7.4.4

山口県教育庁義務教育課

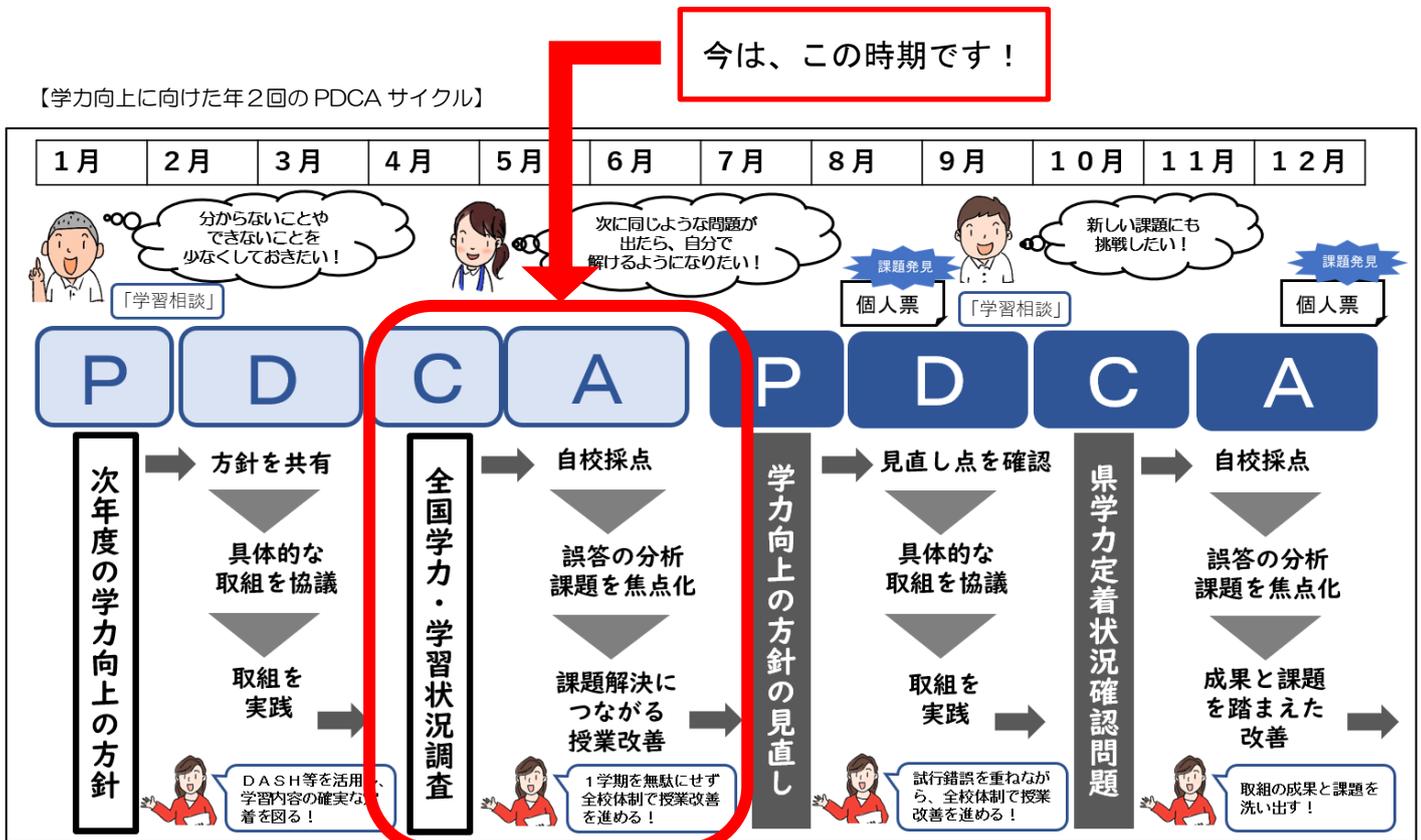
PDCAサイクルによる授業改善・学習改善の推進を

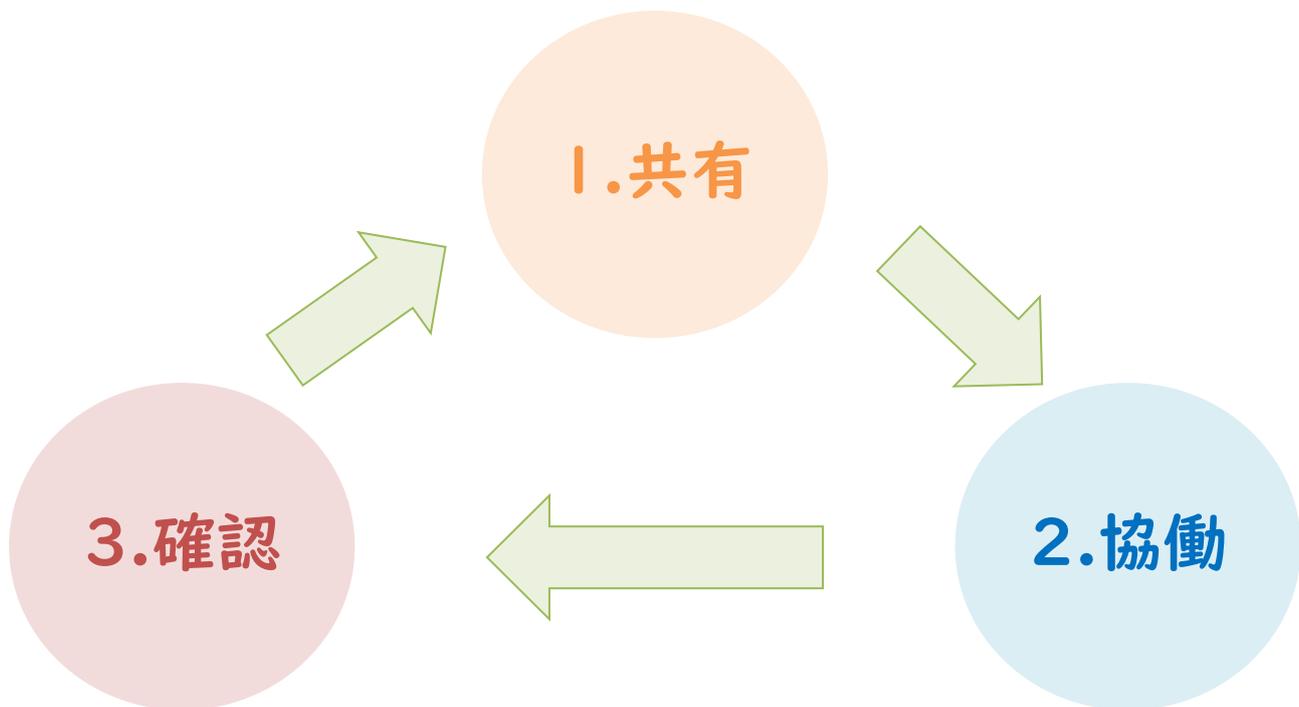
新学期を迎え、新たな気持ちで学校生活を頑張ろうと思っている子どもも多いことでしょう。子どもたちの「わかる」「できる」が増えるように、また、子ども自身が目標をもって学びに向かえるように、学校・家庭・地域が協働して取り組んでいきましょう。



さて、4月17日（木）には全国学力・学習状況調査が実施されるとともに、4月確認問題も4月中に実施するようにしています。全国学力・学習状況調査の結果公表は、例年であれば7月下旬ですが、自校採点により、子どもたちの解答状況を速やかに把握し、成果や課題を学校・家庭・地域で共有することで、教員の授業改善や子どもの学習改善につなげていくことが大切です。

そこで、本号では、「共有」「協働」「確認」のサイクルを生かした取組の一例を裏面に紹介します。各校においても参考にいただき、下の図で示した「年間2回のPDCAサイクル」を確実に回していただきたいと思います。





1. 共有

- 指導改善と学習改善を進めるために、採点、誤答分析、成果や課題の共有を行うまでの「スピード感」を大切にしましょう。
- 改善点はどこにあるのか、どのような道筋で改善を図るのか、より多くの人々（教員、子ども、家庭、地域）とともに考えたり、共有したりする機会をもちましょう。

2. 協働

- 教科や学年の壁を越えて、全校体制での授業や補充学習等に係る指導改善と学習改善を進めましょう。
- 授業の見直しとともに、補充学習や家庭学習の見直しや、地域と連携した取組など、複数の視点からの取組を進めましょう。

3. 確認

- 協働した取組は、計画どおりに進んでいるか、成果につながっているかを確認する機会をもちましょう。
- 協働した取組の成果や課題を、より多くの人々と共有する機会をもち、評価・改善のサイクルを回していきましょう。